

春画・艶本データベースの構築にむけて—その問題点と展望—

Towards Construction of a Database of Edo-period Shunga and Erotic Books
Some Problems and Prospect

石上 阿希*

Resume:

近年、フィンランドで春画だけを列品した春画展が開催されたり¹、ロンドン大学を中心とした春画プロジェクトが発足したりするなど、世界的に近世期の春画・艶本を対象とした研究が隆盛の兆しを見せている。しかし、資料の性質上、『国書総目録』をはじめとした諸目録には所在情報が明記されておらず、春画研究にとっての最重要課題は研究の基礎となる所在目録を構築することである。報告者はこれまで国内及び欧米の博物館・研究機関に所蔵されている春画・艶本約 2000 点の調査を行い、それを基に春画・艶本データベースの構築を進めている。本発表ではその構想と課題について発表した。

1. はじめに

本研究で対象とする春画・艶本とは主に近世期に制作された性的な描写で表現された絵画や、好色的な内容の本文、或いはそのような絵を挿絵として含む版本を指す。当時の呼称としては「枕絵」、「わ印」、「会本」など様々なものがあり、形態も肉筆・版画・版本など多様であった。近世期に制作された春画・艶本数は 2000 点とも 1200 点とも言われており²、当時活躍した浮世絵師のほとんどは春画を制作している。浮世絵師にとって、春画・艶本は決して特別な、背徳的な表現媒体ではなく、美人画や風景画、役者絵などと同じように数ある表現方法の内の一つであった。

春画・艶本は、性的な表現であるという理由などから、これまで十分に研究がされてきた分野であるとは言い難いが、浮世絵師の総合的研究を目指すならば、春画・艶本を包含しなければ十分とはいえない。これは総合的な江戸文化研究を行う上でも同様であり、近年ではそのような理由から春画・艶本が必要不可欠な資料として、再評価されてきている。

2. 春画研究の現状とデータベースの必要性

しかし、研究の基礎となる資料目録が十分に備わっていないというのが春画研究の現状であり、現時点での春画研究の最重要課題は、確固たる春画・艶本目録の作成である。春画・艶本に特化し

た目録はこれまでに何十点も作成されている³。しかし、これら目録の最大の問題点は資料の所蔵先が一切記されておらず、資料の所在調査のツールとしては使えないという点である。これは明治以前に刊行された和書の総合目録である『国書総目録』にも言えることであり、艶本に関しては所蔵の記載が全くみられない。

そのため、現時点で春画・艶本の所在を確認するためには、資料を収蔵する研究機関のデータベースを検索することが第一の方法といえる。日本国内では立命館大学アート・リサーチセンターの他、国際日本文化研究センターが所在情報および画像を公開しており⁴、海外では大英博物館やボストン美術館、フランス国立図書館が比較的大量の春画・艶本の情報公開を行っている。また「コーニツキー版欧州所在日本古書総合目録」データベースではヨーロッパの美術館・図書館に所蔵されている艶本の内、一部の所在情報を得ることが出来るが⁵、これらの所蔵機関に何が収蔵されているのか全てを確認するためには、それぞれのサイトへ行って検索しなければならない。春画・艶本に関して言えば、資料の所在情報を一括で検索できるシステムが未だ構築されていないといえる。

本研究では、それらの情報を取りまとめ、世界各地に散在する資料を一括で検索出来るデータベースを作成する。春画と艶本では形態が異なる

*いしがみ あき (立命館大学衣笠総合研究機構ポストドクトラルフェロー)

ため、個別のデータベースを構築することが必要となるが、本発表では、特に艶本データベースの構築について言及したい。

報告者はこれまで、日本国内外における春画・艶本コレクションの調査を進め、所在情報や書誌情報の蓄積を行ってきた。日本では、立命館大学アート・リサーチセンター林美一コレクション、国際日本文化研究センター、日本浮世絵博物館、上田市立図書館花月文庫などの所蔵品を調査した。また、国外では、ホノルル美術館リチャード・レインコレクション、ボストン美術館、大英博物館、フランス国立図書館などで書誌調査を行った。これら国内外の調査によって、約 2000 点の資料情報を記録、書誌情報の目録化が終了している。

3. 艶本の特性

データベースの概要に入る前に、艶本という資料の特性について触れておきたい。

第一に、ほとんどの艶本において、作者や絵師、版元名は明記されていない。享保の出版取締令をはじめとして、江戸期には何度も出版統制がしかれ、好色本を制作、売買することが禁止されていたためである。版元や作者・絵師は、取り締まりを受けることを防ぐため、艶本や春画を制作するときには隠号を用いるようになる。

一般的な書籍の場合、序文や刊記などに作者や絵師の名前が書かれるが、艶本に関してはほとんどの場合、隠号で記されている。絵師名の隠号に至っては、画中の屏風や障子などにひっそりと記される「隠し落款」があり（図 1）、艶本に慣れていなければ見落としてしまうこともあり得る。

絵師の隠号の例としては、葛飾北斎（1760～1849）の「紫色雁高^{ししきがんこう}」、歌川国芳（1797～1861）の「一妙開程芳^{いちみょうかいほどよし}」などが挙げられる。

特に後者のように、「国芳」をもじった「程芳」という隠号を用いているため、絵師の特定は比較的容易である。特に歌川派の場合は、このような隠号が多く見られる。また隠号の特定は先学によって既に行われているため⁶、多くの場合は隠号から正しい作者名・絵師名を導き出すことは可能である。しかし、中には正体のわからない隠号も少なくない。正しい制作者名を判定するためにも、一つでも多くの事例を知る必要がある。

図 1 歌川国芳画『枕辺深閨梅』部分図(左)、拡大図(右)
立命館大学アート・リサーチセンター所蔵



このように艶本に関して十分な知識がなければ隠号から作者や絵師を特定するのは難しく、目録を作成したり、作品を検索したり上で大きな問題になると言える。

第二点の特性として、一つの作品が書名や体裁を変え何度も刊行されるという複雑な出版事情があったことが挙げられる。ある作品 A が刊行された後、その書名を変更して新たに新刊 B として刊行したり、異なった何種類かの作品 (A, B, C) の一部を取り合わせて一冊の本 D として体裁を整え、刊行したりすることが行われていた。

そのため、異なる書名でも内容が同じであったり、一つの本の中に何種類もの書名が記載されていたりするケースがしばしば見られる。こういった事例は、これまでの艶本目録において混同されることが多く、この分野の目録作成が困難であることの要因の一つとなっている。

4. 艶本データベースの概要

本データベースの独自性は、第一に日本と欧米に散在する資料の所在を一括で検索できる点である。第二に、一つの作品単位ではなく、資料単位で書誌の詳細情報を提示することで、一つの作品につき複数の書誌情報を比較できる点である。

4.1 検索項目

検索項目としては、書名や出版年、所蔵先などの

一般的な項目の他に、隠号や統一作者・絵師名、種々の書名（外題・内題・柱題・見返し題・尾題・序題）など、艶本の性質に即した項目を置く。

4.2 書誌情報

検索結果から図 2 のような詳細書誌情報を表示する。ここで閲覧できるのは様々な書名や隠号、刊年とその根拠、所蔵機関などである。

「記載作者・絵師名」、「統一作者・絵師名」の項目では、先に挙げた北斎の例で言えば、「紫色雁高」が記載絵師名、「葛飾北斎」が統一絵師名となる。いずれからも検索出来るようにすることで、隠号から絵師名を割り出すことも可能であるし、また一人の絵師が使用した隠号の一覧表として用いることも出来る。

[書名]の項目には、本の柱部分に記された柱題、表紙に記された外題、本文の開始丁などに記された内題、序文に記された序題、巻末に記された尾題などを表示する。艶本の作品内に記載されている全ての書名を記録、検索できるようにすること

図 2 書誌詳細表示画面

lan06-0038 [寝盤伽羅枕]		
資料No	lan06-0038	
書名	[寝盤伽羅枕]	書名よみ:ねはんのぎやらまくら
柱題	ぎやら(小)	柱題よみ:
外題		外題よみ:
内題	物なりのよい腰元が田地、犬と梨を結んだ柱、床の郭公遊女の空際、御姥との溜乳すい出す男、氏なふて玉の輿に胡売が娘	内題よみ:とこのほととぎすうかれめのそらなき、おうぼどのためちすいたすおとこ、うしなうてたまのこしにのりうりがむすめ
序題		序題よみ:
見返し題		見返しよみ:
その他題		その他題よみ:
典拠書名	柱題、(季刊浮世絵70号)	
編巻名	下	冊数:1
版型	墨摺枕本	版・写・版
表紙		匡郭:
記載作者・絵師名		
統一作者・絵師名	西川祐信(画)	
地域	京都	版元:
出版年	初版:享保18 西暦:1733	年月日備考:頃(絵入春画艶本目録)
所蔵	HAA	

で、複数の作品間に関連性を見出すことが可能となる。ここでは西川祐信 (1671~1750) の作品である『色道談合草』(1720年頃刊)と『寝盤伽羅枕』(1733年頃刊)を例としてみていきたい。既存の目録ではこの二作品の関連について触れられていない⁷。確かに、書名を見た限りではその可能性に気付くことは出来ないが、二つの作品を見比べると、以下のような共通点が挙げられる。
[1]挿絵が同一である。
[2]内題及び本文が同一である。

しかし、既存のデータベースではそれぞれの情報を検索できたとしても、二作品の画像を見比べなければこの繋がりを発見できない。本データベースでは、この例であれば内題で検索することで書誌情報の比較が可能であり、原本や画像を見なくとも二者間の関連を見いだすことが出来る。

4.3 画像情報

本データベースは、資料の所在・書誌情報を検索することを目的としており、画像の公開は行わない。但し、各所蔵機関のWEB上データベースで画像が公開されている場合、そのURLにリンクさせ、本データベースから画像に到達できるように設定する。これによって各々のデータベースを繋ぎ、横断的に艶本画像を閲覧することが可能となる。

5. おわりに

冒頭でも触れたように、近年ようやく春画研究が隆盛の兆しを見せ始めた。特に、イギリス、フランス、アメリカをはじめとした欧米でその傾向が強く見られる。このような研究状況を踏まえ、本データベースは、日本語版と英語版を両立・連動させることで、海外研究者と資料情報を共有し、春画研究のさらなる発展をはかりたい。

¹ Kiielletyt kuvat—Vanhaaerottista taidetta Japanista 春画—禁断のイメージ展。ヘルシンキ市立美術館，2002
² 林美一『秘本を求めて』所収「新編好色春画目録」。有光書房，1972、白倉敬彦『絵入春画艶本目録』。平凡社，2007
³ 前掲(1)、及び渋井清『ウキヨエ内史』。大鳳閣書房，1932,1933 など。
⁴ 但し、国際日本文化研究センターの「艶本資料データベース」で画像を見るためにはID・パスワードが必要。
⁵ <http://base1.nijl.ac.jp/~oushu/>
⁶ 前掲書(2)の他、林美一『浮世絵の極み』。新潮社，1988
⁷ 前掲書(2)『絵入春画艶本目録』では『色道談合草』項に「他の西川本と重なり合っているようだ。単独本なのか、後編本なのか、いまのところ判断できない。」「寝盤伽羅枕」項に「いずれかの改題再摺本かとも思うが、原本未見。」とある。